

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24038

建築物名称	(仮称)川崎市宮前区有馬2丁目PJ新築工事
建築主	大和ハウス工業株式会社 南関東支社 執行役員支社長 齋藤 栄司
建築物の所在地	川崎市宮前区有馬2丁目9-19、9-20、9-42
設計者氏名、建築士事務所名	宮坂 知明 株式会社岡部憲明アーキテクチャーネットワーク 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,232.52㎡
用途	老人ホーム
構造	壁式鉄筋コンクリート造
階数	地上4階、地下1階
工事完了予定年月	令和8年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)川崎市宮前区有馬2丁目PJ新築工事
建設地	神奈川県川崎市宮前区有馬2丁目9-19、9-20、9-42
用途地域	準住居地域、準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	病院
竣工年	2026年1月 予定
敷地面積	1,265 m ²
建築面積	829 m ²
延床面積	3,233 m ²

階数	地上4F、地下1F
構造	RC造
平均居住人員	125 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	基本設計段階評価
評価の実施日	2024年9月12日
作成者	株式会社 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク
確認日	2024年9月12日
確認者	株式会社 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク

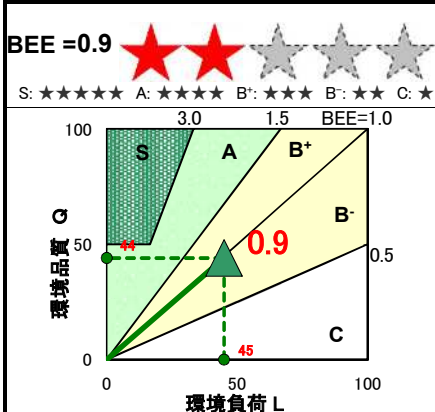
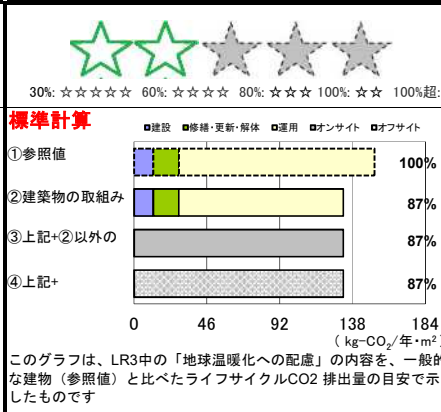
1-2 外観

24038

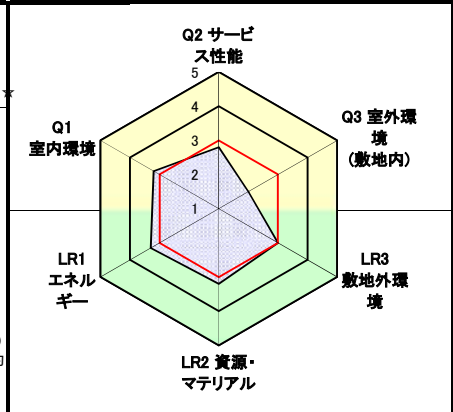
外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

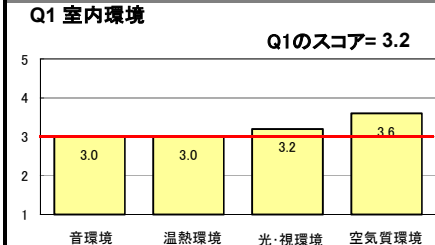
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

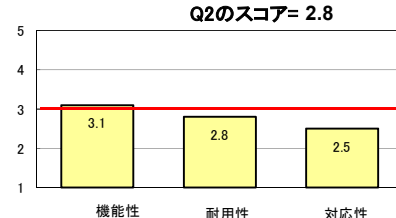


2-4 中項目の評価(バーチャート)

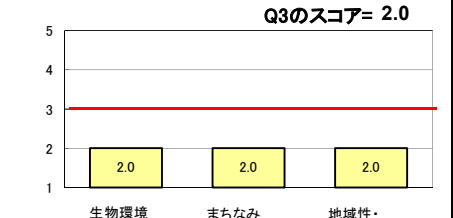
Q 環境品質



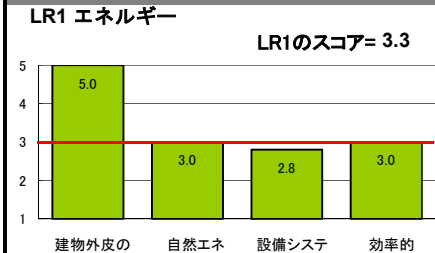
Q2 サービス性能



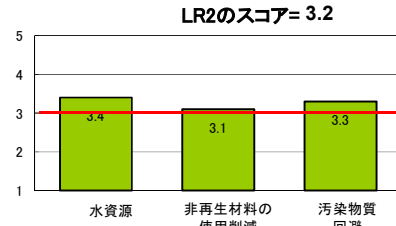
Q3 室外環境(敷地内)



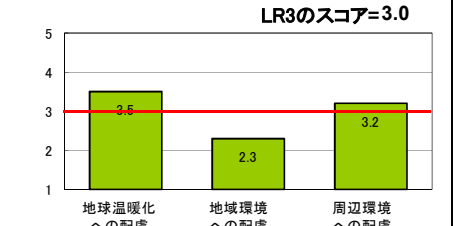
LR 環境負荷低減性



LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)川崎市宮前区有馬2丁目PJ新築工事

24038

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.7/4.3	2.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.7
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御		1.1/1.9	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m 0.74	3.3/5.0	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	自動水栓に加え、節水型便器を採用 再利用できるユニット部材OAフロアを用いている ODP=0 GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用	3.0/4.7	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.3
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	自動水栓に加え、節水型便器を採用 再利用できるユニット部材OAフロアを用いている	2.5/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m 0.74	3.3/5.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.3	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m 0.74	3.3/5.0	3.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		基本設計段階									
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質											2.7
Q1 室内環境								0.40	-		3.2
1	音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
	1.1 室内騒音レベル				—		3.0	0.40	3.0	0.40	
	1.2 遮音						3.0	0.40	3.0	0.40	
	1	開口部遮音性能			—		3.0	0.40	3.0	0.30	
	2	界壁遮音性能			—		3.0	0.60	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			—		-	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)			—		-	-	3.0	0.20	
	1.3 吸音				—		3.0	0.20	3.0	0.20	
2	温熱環境						3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
	2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
	1	室温		W	—		3.0	0.38	3.0	0.57	
	2	外皮性能			—		3.0	0.25	3.0	0.43	
	3	ゾーン別制御性			—		3.0	0.38	-	-	
	2.2 湿度制御				—		3.0	0.20	3.0	0.20	
	2.3 空調方式				—		3.0	0.30	3.0	0.30	
3	光・視環境						3.1	0.25	3.3	1.00	3.2
	3.1 昼光利用						3.0	0.30	4.2	0.30	
	1	昼光率			昼光率 共有部1.9 専有部1.55		3.0	0.60	5.0	0.60	
	2	方位別開口			—		-	-	-	-	
	3	昼光利用設備		W	—		3.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 グレア対策						3.0	0.30	3.0	0.30	
	1	昼光制御		W	—		3.0	1.00	3.0	1.00	
	3.3 照度				食堂照度500xl以上		4.0	0.15	3.0	0.15	
	3.4 照明制御				—		3.0	0.25	3.0	0.25	
4	空気質環境						3.5	0.25	3.8	1.00	3.6
	4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
	1	化学汚染物質			内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00	
	4.2 換気						3.0	0.30	3.6	0.38	
	1	換気量			—		3.0	0.50	3.0	0.33	
	2	自然換気性能			1/10以上の有効開口面積		-	-	5.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮			—		3.0	0.50	3.0	0.33	
	4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
	1	CO ₂ の監視			—		-	-	-	-	
	2	喫煙の制御			—		3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能							-	0.30	-	-	2.8
1	機能性						2.4	0.40	4.0	1.00	3.1
	1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
	1	広さ・収納性			個室10㎡/床かつ多床室8㎡/床以上		-	-	5.0	1.00	
	2	高度情報通信設備対応			—		-	-	-	-	
	3	バリアフリー計画			—		3.0	1.00	-	-	
	1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.5	0.40	
	1	広さ感・景観			居室の天井高2.5m		-	-	4.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース			—		-	-	-	-	
	3	内装計画			—		1.0	1.00	1.0	0.50	
	1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した設計をしている		4.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保			—		2.0	0.50	-	-	
2	耐用性・信頼性						2.8	0.30	-	-	2.8
	2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)			—		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能			—		3.0	0.20	-	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		R	—		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R	—		2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R	ビニルクロス 20年		5.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R	—		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		R	—		3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性						1.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備			—		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備			—		2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備			—		1.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法			—		1.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備			—		1.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									2.7	0.30	2.4	1.00	2.5
	3.1 空間のゆとり									2.2	0.30	1.8	0.50	
	1 階高のゆとり								—	1.0	0.60	1.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								壁長さ比率0.1496	4.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								—	3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性									3.0	0.40	—	—	
	1 空調配管の更新性								—	3.0	0.20	—	—	
	2 給排水管の更新性								—	3.0	0.20	—	—	
	3 電気配線の更新性								—	3.0	0.10	—	—	
	4 通信配線の更新性								—	3.0	0.10	—	—	
5 設備機器の更新性								—	3.0	0.20	—	—		
6 バックアップスペースの確保								—	3.0	0.20	—	—		
Q3 室外環境(敷地内)										—	0.30	—	—	2.0
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	—	2.0	0.30	—	2.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					—	2.0	0.40	—	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮									—	2.0	0.30	—	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									—	2.0	0.50	—	—	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	—	2.0	0.50	—	—	
LR 建築物の環境負荷低減性											—	—	—	3.2
LR1 エネルギー										—	0.40	—	—	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	BPI _m 0.74	5.0	0.20	—	5.0
2	自然エネルギー利用					W			H	—	3.0	0.10	—	3.0
3	設備システムの高効率化					W			H	—	2.8	0.50	—	2.8
4	効率的運用									—	3.0	0.20	—	3.0
集合住宅以外の評価									—	3.0	1.00	—	—	
4.1 モニタリング					W			H	—	3.0	0.50	—	—	
4.2 運用管理体制					W			H	—	3.0	0.50	—	—	
集合住宅の評価									—	—	—	—	—	
4.1 モニタリング					W			H	—	—	—	—	—	
4.2 運用管理体制					W			H	—	—	—	—	—	
LR2 資源・マテリアル										—	0.30	—	—	3.2
1	水資源保護					W			R	—	3.4	0.20	—	3.4
1.1 節水									—	4.0	0.40	—	—	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									—	3.0	0.60	—	—	
1 雨水利用システム導入の有無									—	3.0	0.70	—	—	
2 雑排水等利用システム導入の有無									—	3.0	0.30	—	—	
2	非再生性資源の使用量削減									—	3.1	0.60	—	3.1
2.1 材料使用量の削減					W			R	—	2.0	0.11	—	—	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					W			R	—	3.0	0.22	—	—	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W			R	—	3.0	0.22	—	—	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W			R	—	3.0	0.22	—	—	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					W			R	—	—	—	—	—	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W			R	OAフロア	4.0	0.22	—	—	
3	汚染物質含有材料の使用回避									—	3.3	0.20	—	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用									—	3.0	0.30	—	—	
3.2 フロン・ハロンの回避									—	3.5	0.70	—	—	
1 消火剤					W				—	—	—	—	—	
2 発泡剤(断熱材等)					W				ノンフロン	4.0	0.50	—	—	
3 冷媒					W				—	3.0	0.50	—	—	
LR3 敷地外環境										—	0.30	—	—	3.0
1	地球温暖化への配慮					W				BEI _m 0.84	3.5	0.33	—	3.5
2	地域環境への配慮									—	2.3	0.33	—	2.3
2.1 大気汚染防止									—	3.0	0.25	—	—	
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	—	2.0	0.50	—	—	
2.3 地域インフラへの負荷抑制									—	2.5	0.25	—	—	
1 雨水排水負荷低減								R	—	3.0	0.25	—	—	
2 汚水処理負荷抑制								R	—	3.0	0.25	—	—	
3 交通負荷抑制								R	—	2.0	0.25	—	—	
4 廃棄物処理負荷抑制								R	—	2.0	0.25	—	—	
3	周辺環境への配慮									—	3.2	0.33	—	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									—	3.0	0.40	—	—	
1 騒音									—	3.0	1.00	—	—	
2 振動									—	—	—	—	—	
3 悪臭									—	—	—	—	—	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									—	3.0	0.40	—	—	
1 風害の抑制									—	3.0	0.70	—	—	
2 砂塵の抑制									—	1.0	—	—	—	
3 日照阻害の抑制									—	3.0	0.30	—	—	
3.3 光害の抑制									—	4.4	0.20	—	—	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策									屋外照明設置無し	5.0	0.70	—	—	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									—	3.0	0.30	—	—	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 -

外壁 - 床 -

住戸部分システムU値 - 外皮UA値 -

ηAC - ηAH -

昼光率 0.0%

自然換気有効開口比(1.9*2.1)/15=0.266

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 ##### 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 34% 水平投影面積率 16% 地表面対策面積率 19% 舗装面積率 25%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.74 断熱等性能等級 等級2 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡

採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 0.84 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E 押出ポリスチ エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 #DIV/0! 棟間隔指標Rw -

地表面対策面積率 29.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0!

外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積S_b ㎡ 越風向と直交する最大敷地幅W_s 0 m 基準高さH_b 0 m

緑地 104㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡